

肥育豚の夜間制限給餌の実証

要約

養豚農家の農場で豚を夜間制限給餌により肥育したところ、不断給餌の場合と同等の発育成績や枝肉成績が得られることがおおむね確認された。

○ 展示のねらい

飼料価格の高止まりにより、養豚経営において生産費削減が重要な課題となっている。栃木県畜産酪農研究センターの研究成果として、去勢豚を夜間制限給餌により肥育することで、飼料費が削減でき、粗利益の向上が期待できることが確認された。

そこで、豚を夜間制限給餌により肥育し、生産農場における発育成績や枝肉成績に及ぼす影響について検証した。

供試頭数は247頭とし、夜間（目安※：午後7時～午前5時）制限給餌で肥育し、出荷日数、飼料摂取量（推定値）、枝肉重量を調査した。なお、参考比較するため不断給餌で肥育する豚舎の369頭の成績も合わせて調査した。

○ 主な成果

表 出荷成績

	試験区 （夜間制限給餌）	【参考】 不断給餌
飼養期間	R6. 5. 30 ～R6. 7. 31	R6. 4. 20 ～R6. 7. 19
出荷頭数	173※	369
平均出荷日齢	153. 9	154. 7
平均飼料摂取量 （kg/頭/日）	3. 10	不明
平均枝肉重量 （kg/頭）	73. 6	74. 2

※247頭のうち7/31までに出荷した頭数



夜間制限給餌で飼養時の給餌器

- ・ 表に示したように、夜間制限給餌で飼養した場合でも、不断給餌の場合と比較して、出荷日齢及び枝肉重量に大きな差がなく飼養管理・出荷できることが確認された。
- ・ 夜間制限給餌による飼料摂取量の増減に関する影響を比較することができなかったが、担当農家の話では「例年の同時期より飼料摂取量が増えた印象はない」とのことであり、マイナスの影響は少ないものと示唆された
- ・ 不断給餌の場合だと、給餌器の出口（豚が飼料摂取する場所）で飼料が濡れて固まり腐敗してしまったり、給餌器からこぼれ出てしまったりすることがあるが、夜間制限給餌ではこのようなことが一切見られなかったため、衛生面や飼料のロスを減らす効果も見込まれ有効な技術であると考えられた。

○ 今後の方向性

普及上の留意点として、去勢豚に対して特に効果があるため、雌と別飼いにすることが望ましい。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315